港湾最前線 Harbor

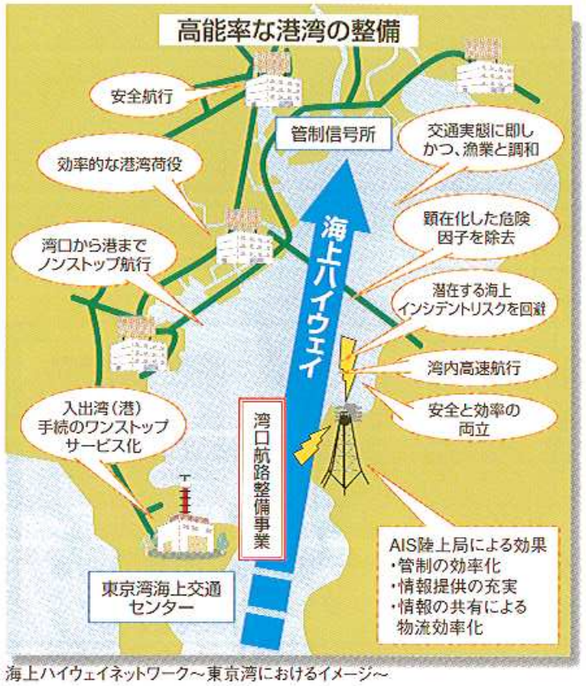
Ports-gateway to the world

物流の効率化のために

1.海上ハイウェイネットワークの構築による物流の効率化等

海上ハイウェイネットワークとは、安全で、速くて、確実な海上輸送網をつくろうとするもので、より安全で、より速く、より安い物流の実現をめざしています。

このため、国際幹線航路をつくったり、国際港湾の設備を整える一方、ITを取り入れてみなとや船の航行に関する情報提供システムを構築するなど、ハードとソフトの両面からの取り組みが進められています。



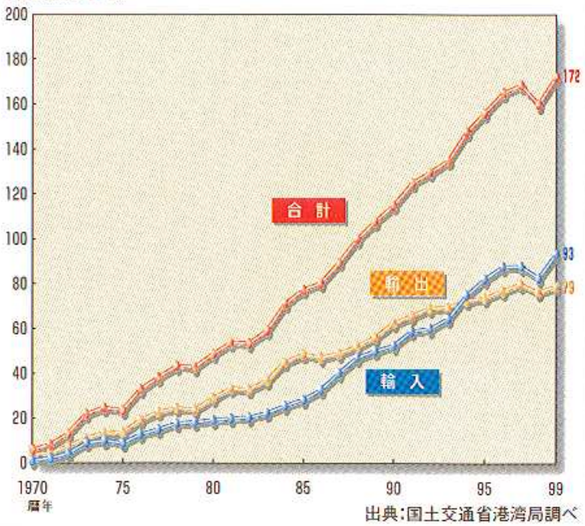
海上ハイウェイネットワーク～東京湾におけるイメージ～

2.中枢・中核国際港湾の整備

年々増加するコンテナ貨物の輸送量やコンテナ船の大型化に効率良く対応して国民生活を支え、産業の国際競争力を強化する物流を実現するために、東京湾、伊勢湾、大阪湾、北部九州の中枢国際港湾とこれを補完する全国8地域の中核国際港湾で、拠点的な国際海上コンテナターミナルの整備が進められています。

中枢国際港湾では水深15m級の大型コンテナターミナルなど国際水準のサービスを提供するみなとづくりが進められています。

外貿コンテナ取り扱いトン数の推移

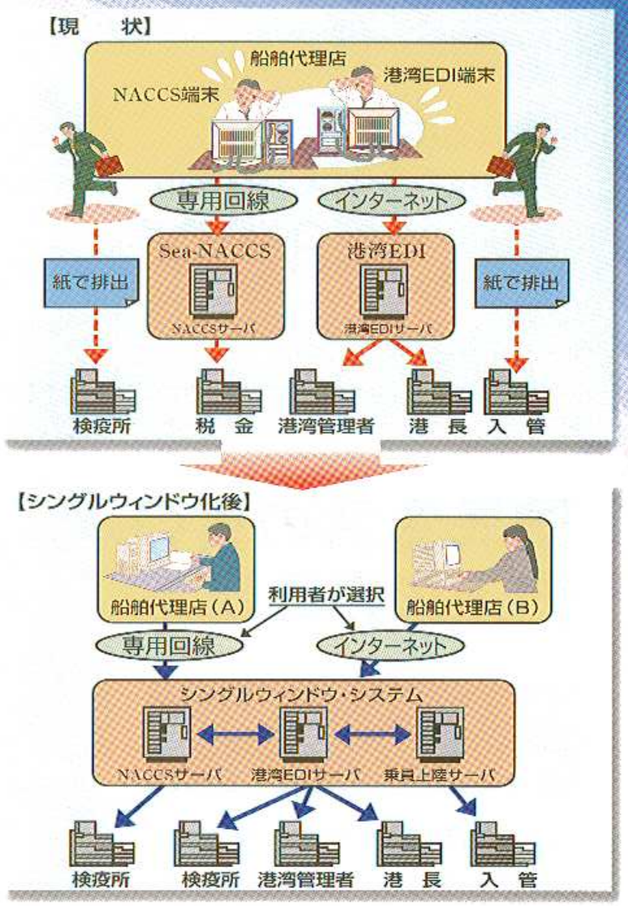


出典:国土交通省港湾局調べ

3.輸出入・港湾関連手続のワンストップサービス化(シングルウィンドウ化)

船舶が入出港するときには、複数の行政機関に様々な手続をとらなくてはなりません。これまでは、各行政機関が個別にシステムを構築してきたため、利用者は複数の端末から手続を行っていました。また、電子化していない行政機関もあり、電子的な手続と窓口での手続が混在し、多くの時間と労力がかかっていました。しかし、NACCS、港湾EDIシステム等の各システムを接続・連携することで、平成15年度の早い時期には、輸出入・港湾関連手続のワンストップサービス(シングルウィンドウ化)が実現します。シングルウィンドウ・システムにより、入港届のような各行政機関に共通する手続は、一回の入力・送信で、全ての必要な行政機関への手続が完了します。また、各行政機関個別の手続であっても、関連するデータはシステム内で転記されることから、入力の手間が軽減されます。

今後はさらに、船舶から荷主までの民間事業者の情報化を支援するため、『港湾物流情報プラットホーム』の構築に向けて、取り組みが進められています。



4.空港・港湾・鉄道・道路の連携の強化による物流の高度化と交流の円滑化

わが国は、身近な食料品から工業の原材料、エネルギー資源にいたるまで、そのほとんどを輸入に頼っています。今後、産業の国際競争力を高め、また、利用者の立場に立ったドア・ツー・ドアのサービスを提供するためには、低コストで地球環境にもやさしい物流システムの整備が必要になってくるでしょう。輸送のスピードアップを図り、交通機関の乗り継ぎや荷物の積み替えがスムーズに行えるようにするため、空港や港湾、駅など交通の拠点や高規格幹線道路及びこれらを接続する道路の整備が進められています。